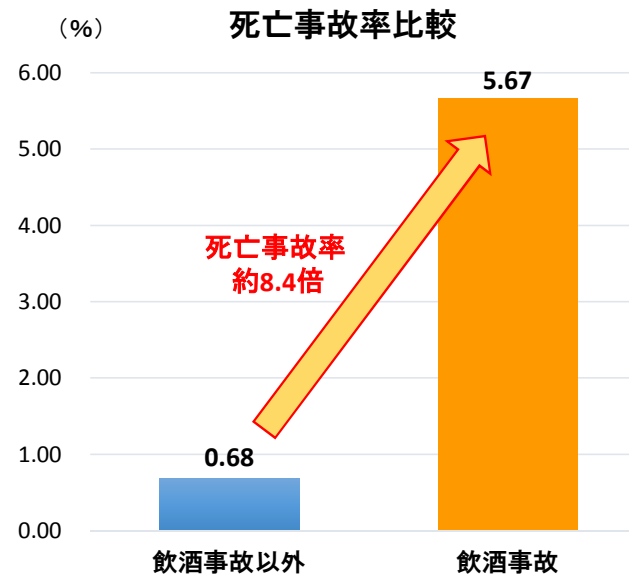


## 5-2-2 その他について(飲酒死亡事故)

- 飲酒事故の死亡事故率は5%を超えており、飲酒事故以外の死亡事故率と比べて約8.4倍の水準にある。

図 飲酒死亡事故(原付以上第一当事者)の死亡事故率比較(平成28年)



(参考)

死亡事故率

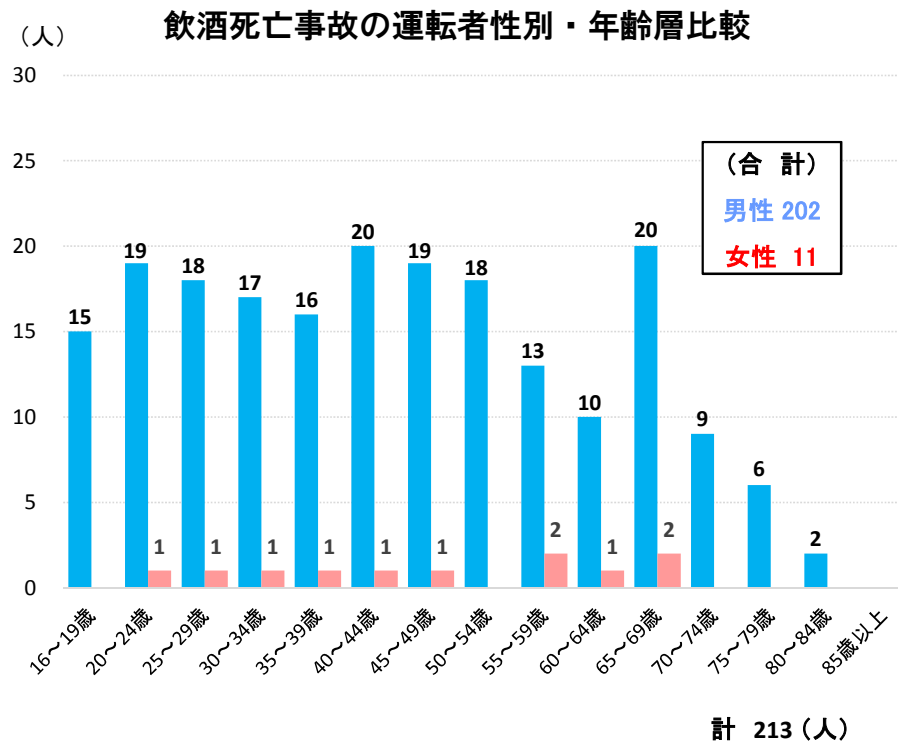
	飲酒事故以外	飲酒事故
死亡事故件数	3,197	213
全事故件数	471,019	3,757
死亡事故率	0.68%	5.67%

(注)・死亡事故率とは、全事故件数のうち死亡事故の占める割合をいう。

## 5-2-3 その他について(飲酒死亡事故)

- 飲酒死亡事故を起こした運転者の性別は男性が圧倒的に多く、全体の9割以上を占めており、全ての年齢層を通じて発生している。

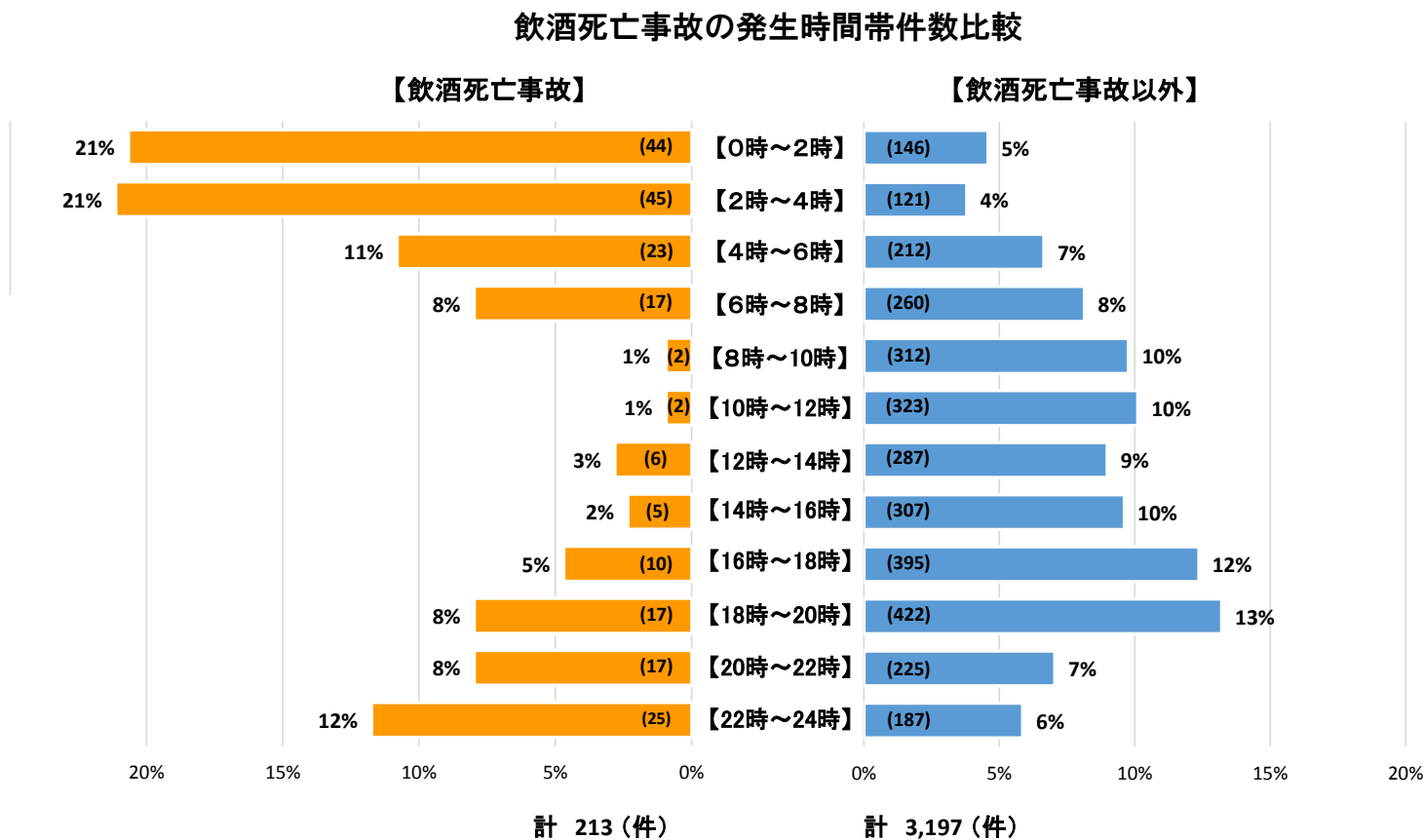
図 飲酒死亡事故の運転者(原付以上第一当事者)における性別・年齢層比較(平成28年)



## 5-2-4 その他について(飲酒死亡事故)

- 飲酒死亡事故については、22時から6時にかけて特に多く発生している。

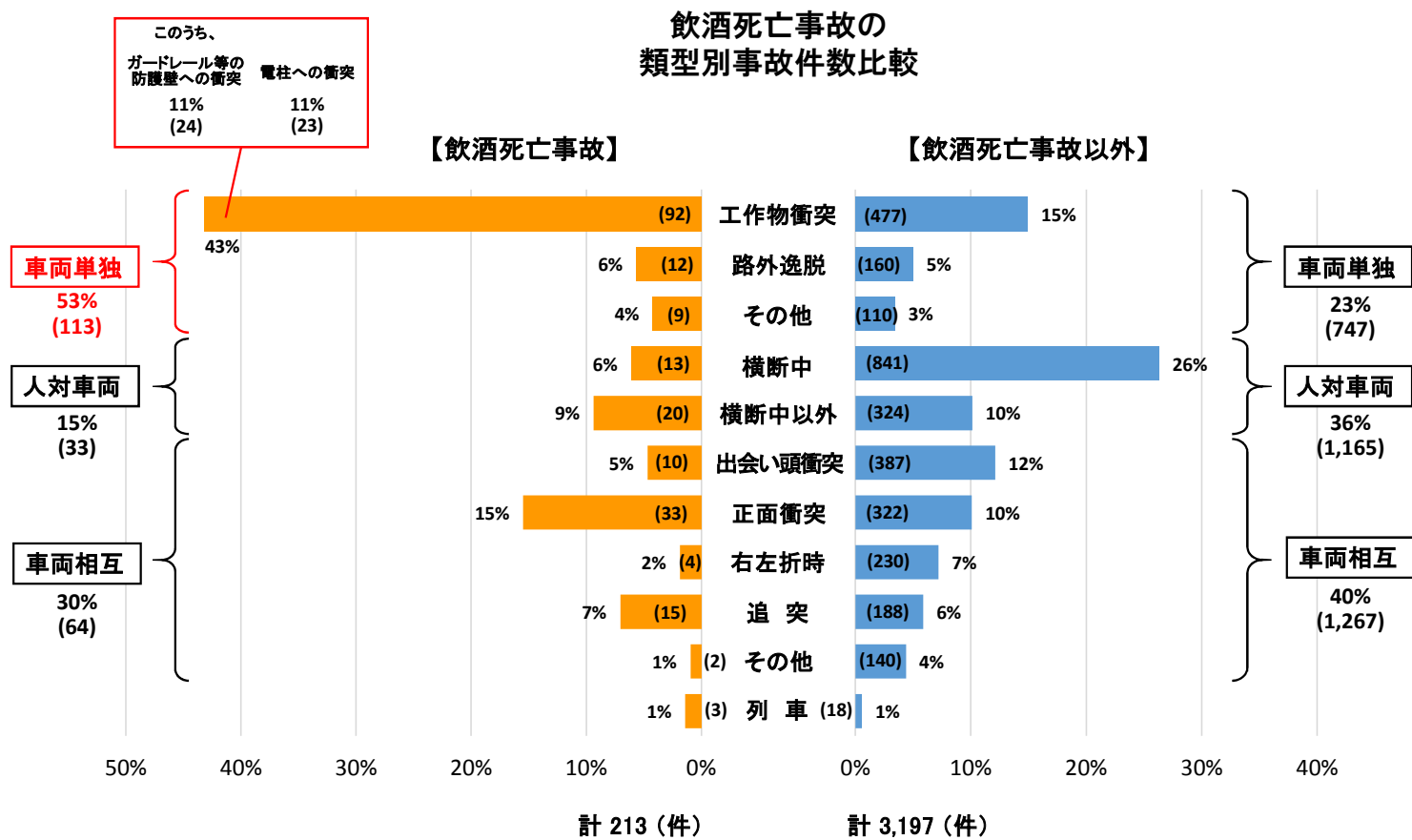
図 飲酒死亡事故(原付以上第一当事者)の発生時間帯件数比較(平成28年)



# 5-2-5 その他について(飲酒死亡事故)

- 飲酒死亡事故を類型別に見てみると、車両単独事故が多く全体の5割を超えている。
- 具体的な類型を見てみると、ガードレールや電柱への衝突等の工作物衝突が特に多い。

図 飲酒死亡事故(原付以上第一当事者)の類型別死亡事故件数比較(平成28年)

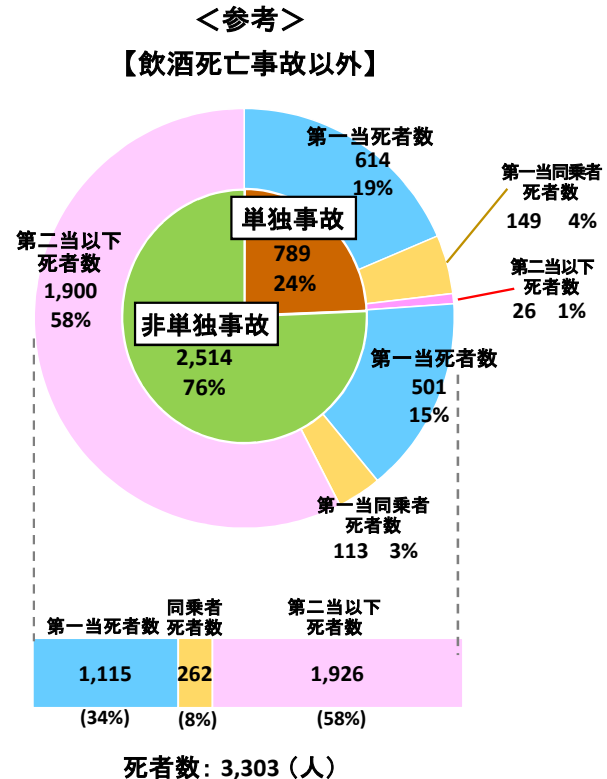
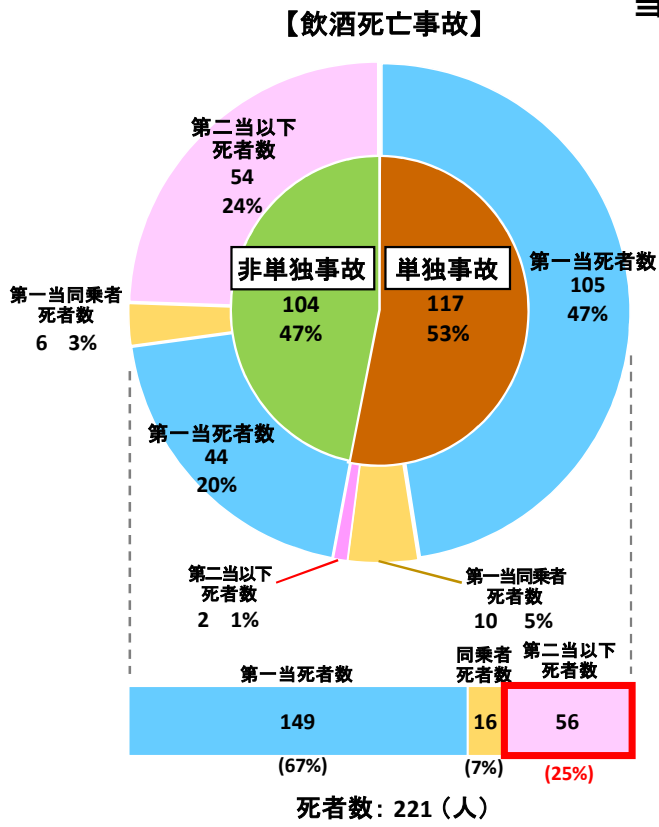


# 5-2-6 その他について(飲酒死亡事故)

- 飲酒死亡事故は単独事故が多く、第一当事者や同乗者が死亡する事故が多いが、約25%は第三者を死亡させている。

図 飲酒死亡事故(原付以上第一当事者)の当事者別死者数比較(平成28年)

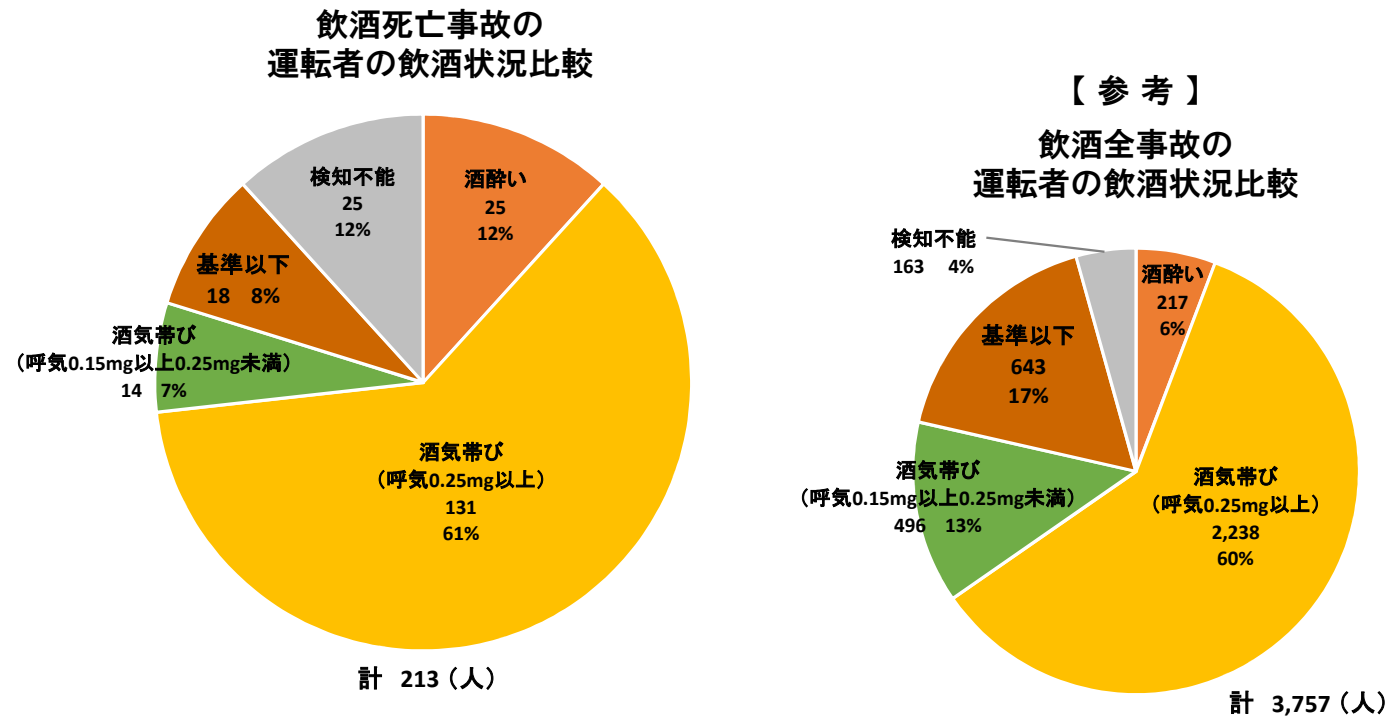
## 飲酒死亡事故の 当事者別死者数比較



# 5-2-7 その他について(飲酒死亡事故)

- 飲酒死亡事故を起こした運転者の飲酒状況を見てみると、酒酔い又は酒気帯び(呼気0.25mg以上)が7割を超えている。

図 飲酒死亡事故の運転者(原付以上第一当事者)における飲酒状況比較(平成28年)

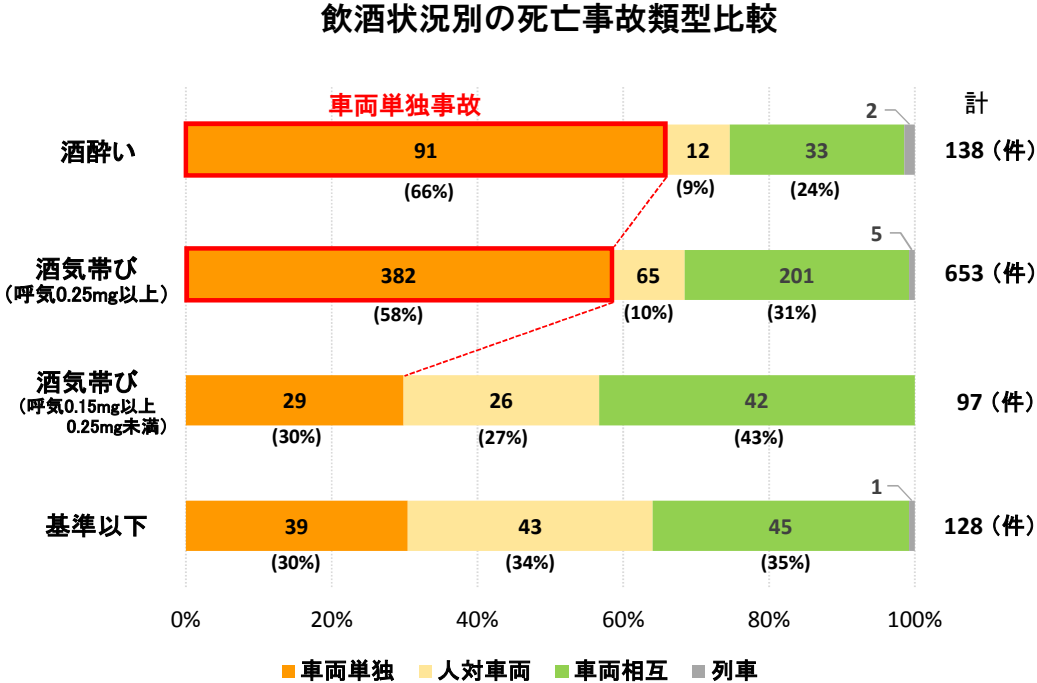


(注)・血液1mlにつき0.5mgは呼気1リットルにつき0.25mgとして、血液1mlにつき0.3mgは呼気1リットルにつき0.15mgとして算出している。  
 ・酒気帯びを呼気1リットルにつき0.25mg以上・未満の場合で区別したのは、両方で付する違反点数が異なるためである。

# 5-2-8 その他について(飲酒死亡事故)

- 飲酒状況別の事故類型をしてみると、アルコールの影響が大きい状況ほど、車両単独による死亡事故が多く発生している。

図 飲酒死亡事故の運転者(原付以上第一当事者)における飲酒状況別の事故類型比較(平成24~平成28年)

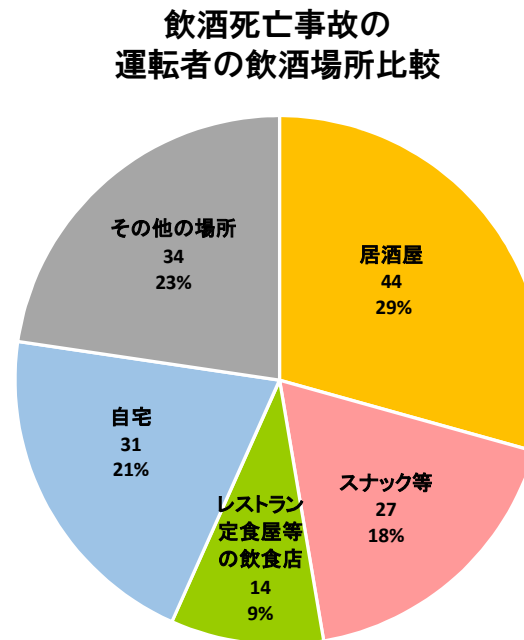


※上記以外に、検知不能 121(件)がある。  
計 1,137 (件)

## 5-2-9 その他について(飲酒死亡事故)

- 飲酒死亡事故を起こした運転者の飲酒場所をしてみると、居酒屋やスナック、レストラン・定食屋等の飲食店で飲酒した事例のほか、自宅で飲酒した事例も多い。

図 飲酒死亡事故の運転者(原付以上第一当事者)における飲酒場所比較(平成28年)



計 150 (人)

※飲酒場所が不明であった63(人)を除く。

(注)・「その他の場所」とは、知人宅、勤務先やホテル、コンビニ等である。



# 5-2-10 その他について(飲酒死亡事故)

- 飲酒終了時刻から死亡事故発生時刻の経過時間は、飲酒直後から1時間までの時間帯が最も多いが、飲酒終了から一定時間経過後の死亡事故も発生している。

図 飲酒死亡事故の運転者(原付以上第一当事者)における飲酒終了から事故発生までの経過時間比較(平成28年)

